

資源循環型社会の形成

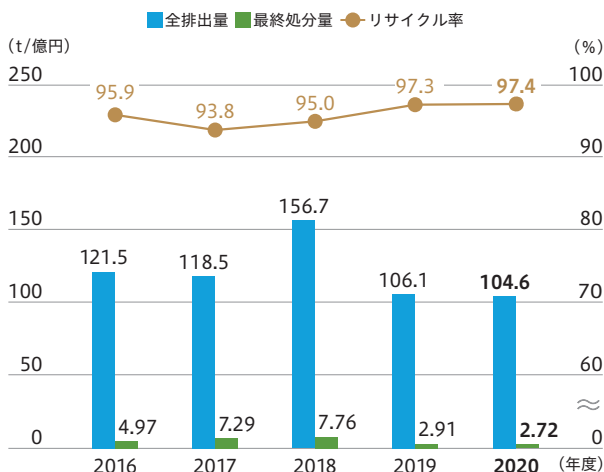
建設廃棄物排出量の推移

2020年度の建設廃棄物の完成工事高1億円当たりの排出量は104.6 t/億円と前年度から1.5 t/億円の減少となり、最終処分量は0.19 t/億円減の2.72 t/億円となり共に2019年度とほぼ同水準となりました。

2020年度は解体工事が若干増加したことによりコンクリートガラが増加しましたが、地盤改良工事により発生する建設汚泥が減少し、結果として2019年度と同水準となったものと考えています。

リサイクル率については、全社目標の96%に対して97.4%と前年度と同一水準で目標を達成しました。要因はリサイクル率の高いコンクリートガラの増加と、建設汚泥のリサイクル率が2019年度と同様の99.4%と高い水準を維持したことによるものと考えています。

完成工事高1億円当たりの建設廃棄物排出量の推移



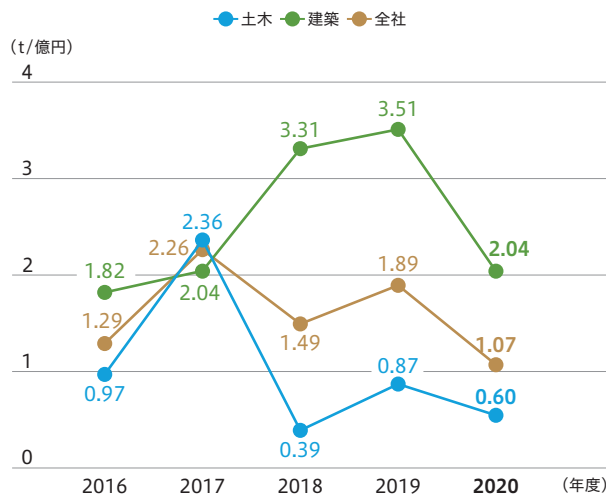
混合廃棄物排出量の推移

2020年度の混合廃棄物の完成工事高1億円当たりの排出量は、全社では1.07 t/億円、土木工事は0.60 t/億円、建築工事は2.04 t/億円と全社で減少となりました。

良好な結果となったのは、2019年度が全社的に増加に転じたことから、2020年度は廃棄物の分別活動を重点的に実施した結果、全社目標としている「混合廃棄物の対象建設廃棄物*に対する割合15%以下」をほとんどの支店で達成したことが要因であり、廃棄物の分別等の適切な管理は有効に実施されていると考えています。

*建設廃棄物からコンクリートガラ・アスファルトコンクリートガラ・ガレキ類・建設汚泥を除いた建設廃棄物

完成工事高1億円当たりの混合廃棄物排出量の推移



リサイクル量の推移

完成工事高1億円当たりのリサイクル量は、全社で101.89 t/億円、土木工事は92.63 t/億円、建築工事は120.99 t/億円となり、2019年度に比べ土木工事が減少し建築工事が増加した結果、全社ではわずかに減少となりました。

要因として、土木工事において地盤改良工事の減少によりリサイクル率の高い建設汚泥の発生が減少したため、完成工事高当たりのリサイクル量が減少しました。また建築工事においては、解体・改修工事が増加したことにより、リサイクル率の高いコンクリートガラの発生量が増加し、完成工事高当たりのリサイクル量が増加したと考えています。

完成工事高1億円当たりのリサイクル量の推移

